

令和2年度 神奈川県商店街実態調査（アンケート）結果概要版

公益社団法人商連かながわ

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、神奈川県内の商店街を取り巻く様々な環境の中で、商店街の加入状況、景況感等の状況並びに商店街の活性化活動の状況を把握し、その実態を明らかにすることにより、神奈川県内の商店街の将来への展望と活性化への方策などを検討するために実施するものです。

今年度は、商店街が保持するハード設備の維持管理と老朽化問題を主なテーマに設定して調査をしました。

2. 調査概要

(1) 調査対象

	アンケート調査		ヒアリング調査
	配布数	回収数	訪問数
(公社) 商連かながわ加入の商店街	65	56	19
(公社) 商連かながわ未加入の商店街	5	3	1
合計	70	59	20

・回収数：59票（回収率84.3%）

地区名	対象市区町村
横浜地区（横浜市）	鶴見区（3）、神奈川区（2）、西区（0）、中区（1）、南区（1）、保土ヶ谷区（2）、磯子区（0）、金沢区（2）、港北区（1）、戸塚区（0）、港南区（0）、旭区（2）、緑区（1）、瀬谷区（1）、栄区（0）、泉区（0）、青葉区（2）、都筑区（0）
川崎地区（川崎市）	川崎区（4）、幸区（1）、中原区（3）、高津区（1）、多摩区（0）、宮前区（0）、麻生区（1）
横須賀・三浦地区	横須賀市（8）、逗子市（1）、三浦市（1）、葉山町（1）
県央地区	相模原市（4）、厚木市（3）、大和市（1）、座間市（1）、綾瀬市（1）、愛川町（1）
湘南地区	平塚市（3）、藤沢市（7）、茅ヶ崎市（2）、秦野市（2）、伊勢原市（1）、二宮町（1）
西部地区	小田原市（3）、箱根町（0）、湯河原町（1）
その他	南足柄市（0）、山北町（1）

(2) 調査方法・期間

①アンケート調査

- ・郵送またはFAXによる発送、回収
- ・調査期間：令和2年5月8日～5月31日

②ヒアリング調査

- ・訪問または電話によるヒアリング
- ・調査期間：令和2年6月11日～9月10日

(3) 集計方法

- ・当アンケート調査では、回答方法が選択肢の中から一つを選ぶ単一回答、選択肢の中から複数の選択肢を選ぶ複数回答、そして回答者が設問内容にたいして自由に回答する自由回答の3種類があります。
- ・単一回答と複数回答の集計では、いずれも有効回答者数が59であることから、構成比などを算出するときの母数は59となります。
- ・なお複数回答の設問では、回答数が59を上回ることがあります。その事がわかるように各表の下欄外に回答数のほかに括弧書きで、標本数を“n=59”と表記しています。
- ・また回答する権利のある回答者数（標本数）が64を下回る設問もあります。その場合の集計表には標本数を示す“n=16”とか“n=8”とかと欄外に表記しています。

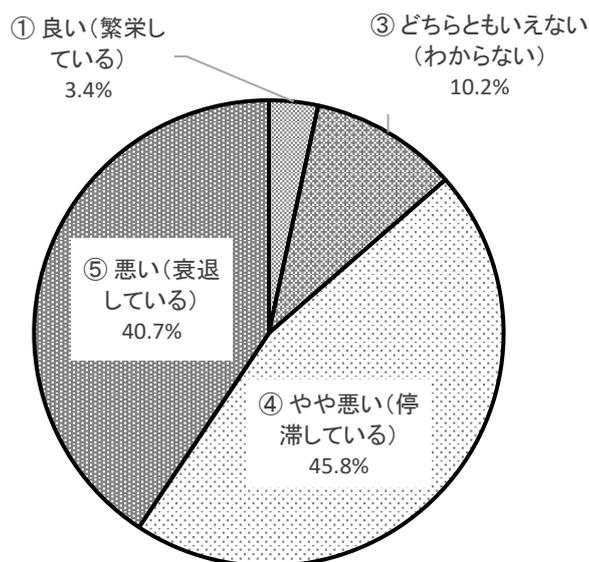
(4) 表記

- ・図表の構成比（%）は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。
- ・商店街組織には商店会や商店街などがありますが、この報告書では商店街という表記で統一しています。

II. アンケート結果のまとめ

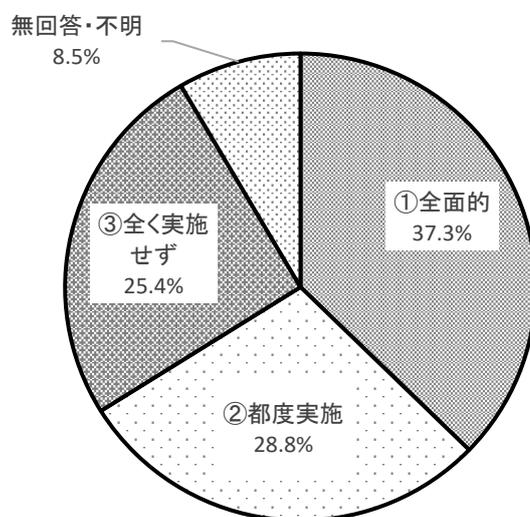
【最近の景況感については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり厳しい見方が多くなっている】

- 最近の景況感については、「やや悪い（停滞している）」と「悪い（衰退している）」を足して86.5%の商店街が景気は悪い状況にあると感じています。
- 今後の活性化の見通しについても、「悪くなっていく」（35.6%）、「やや悪くなっていく」（32.2%）で合わせて67.8%が悪化するとみています。



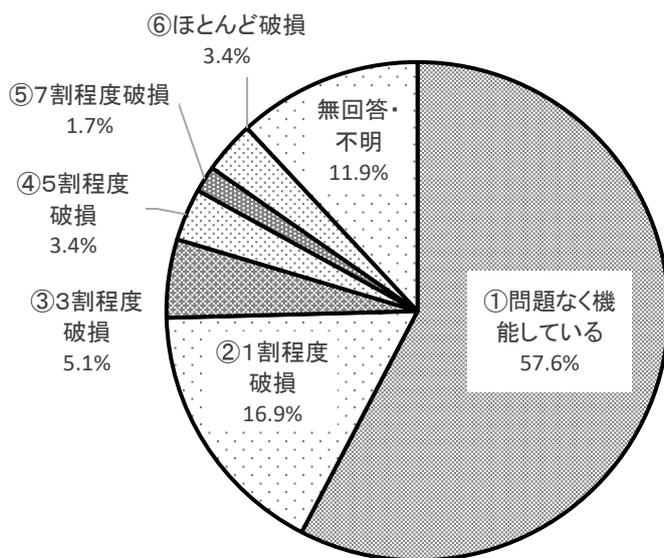
【街路灯の68.8%、アーケードの50.0%は「全面的に修繕」している】

- ハード設備の修繕の実施状況については「全面的に修繕した」という回答が多いのは、「街路灯」（68.8%）、「アーケード」（50.0%）などで、「修繕が必要な時に都度実施した」というのが多いのは「アーチ等」（50.0%）、リニューアル・修繕を「全く実施せず」が多いのが「防犯カメラ」（70.0%）でした。
- 「道路舗装」や「道路舗装」は商店街によってリニューアル・修繕の実施状況はさまざまでした。



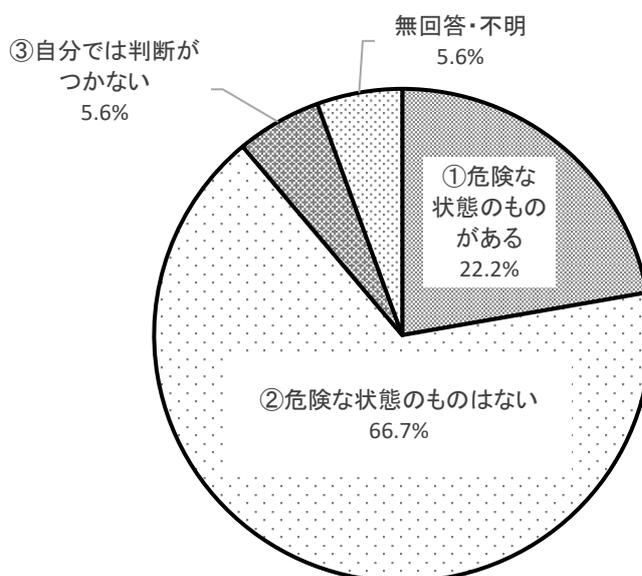
【ハード設備の約3割（30.5%）は何らかの形で破損している】

- ハード設備の状態について「全て問題なく機能している」と回答したのは57.6%の商店街です。その他に何割か破損しているという回答があわせて30.5%ありました。
- 破損の程度別にみると、「1割程度」（16.9%）が一番多いが、「7割程度」（1.7%）とか「ほとんど破損」（3.4%）などと、深刻な破損を抱えている商店街もあることがわかりました。
- ハード別にみると、「全て問題なく機能している」との回答が比較的多いのは、「街路灯」（81.3%）、「アーケード」（62.5%）、「防犯カメラ」（60.0%）などで、「全て問題なく機能している」との回答が少ないのが「駐車場」（25.0%）、「アーチ等」（37.5%）でした。



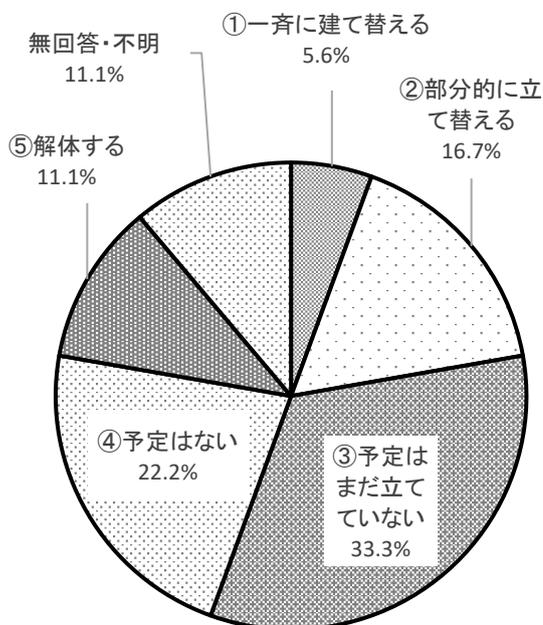
【破損したハード設備のうち「危険な状態のものがある」との回答は22.2%】

- 破損したハード設備についてその危険度を聞いたところ、「危険な状態のものがある」の回答が4つの商店街（22.2%）であり、その内訳は「街路灯」が2つの商店街、「アーケード」と「アーチ等」がそれぞれ1つの商店街でした。



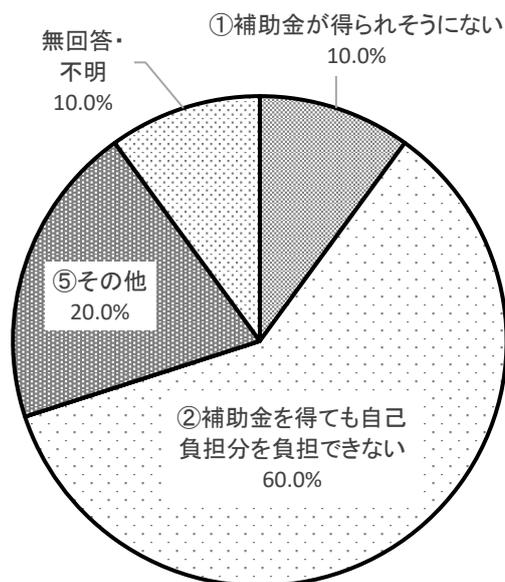
【破損したハード設備を一斉に建て替える予定がある商店街は18商店街のうち1つだけ】

- 破損したハード設備の修繕予定については、建て替え予定のあるのは4商店街（22.3%）で、うち1つは一斉の建て替え（5.6%）を、3つは部分的建て替え（16.7%）を予定しています。
- 建て替え予定はまだない、予定そのものがないと回答しているのは、それぞれ6商店街（33.3%）と4商店街（22.2%）でした。「解体する予定がある」商店街も2つありました。



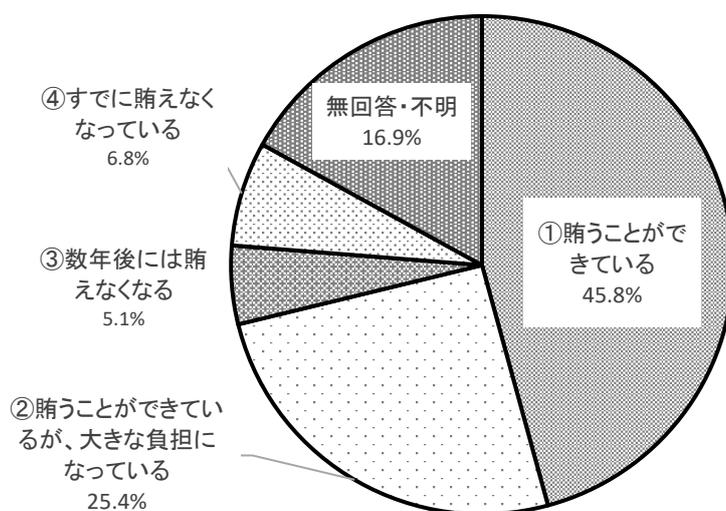
【建て替え計画が立たない理由では「行政の補助金を得られても、自己負担分を商店街で負担できないから」という意見が多い】

- 建て替え計画が立たない理由については、「行政の補助金を得られても、自己負担分を商店街で負担できないから」（60.0%）が10商店街中6つの商店街で回答しています。「行政の補助金が得られそうにないから」（10.0%）と回答した商店街が1商店街でした。



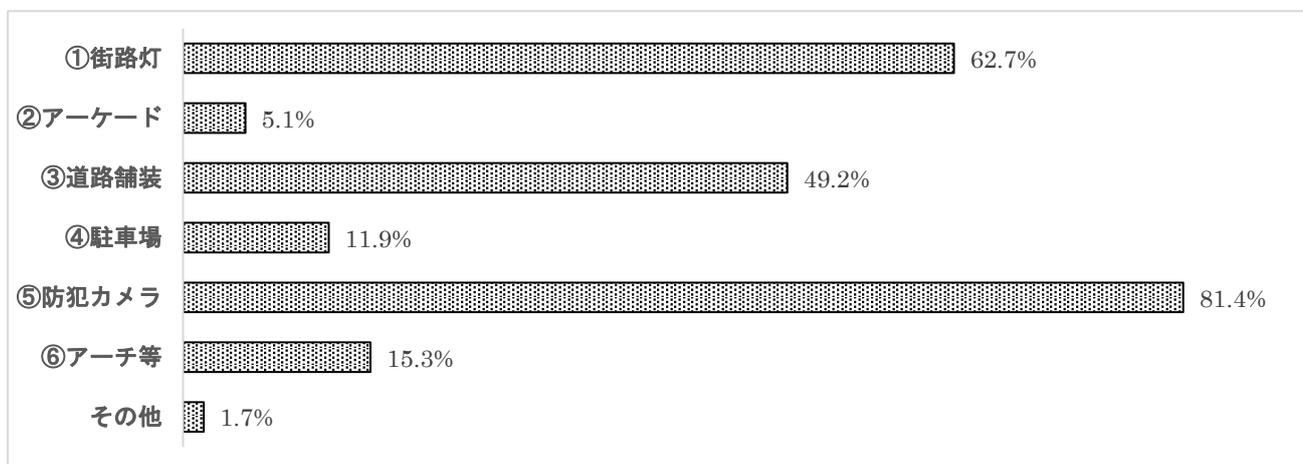
【ハード設備の維持費の捻出が難しくなっている商店街が37.3%】

- ハード設備の維持費については、商店街の運営費で賄うことができているのは45.8%ですが、維持費の捻出が難しくなっている商店街（大きな負担・数年後には賄えない・すでに賄えない）も合計で37.3%がありました。
- 難しい維持費の支出について、25.4%の商店街では「商店街の運営費で賄うことができているが、大きな負担になっている」と感じています。
- 「商店街の運営費だけでは、数年後には賄えなくなる」（5.1%）、「商店街の運営費だけでは、すでに賄えなくなっている」（6.8%）という極めて難しい状況になると考えている商店街もあわせて11.9%あります。



【防犯カメラについては商店街の81.4%が、行政が設営し運営すべきだと思っている】

- 行政が設営し運営すべきだと思うハード設備として、最も多いのは「防犯カメラ」（81.4%）で、ついで「街路灯」（62.7%）、「道路舗装」（49.2%）でした。
- さらに、「防犯カメラ」は、今後必要だと思うハード設備のトップにあげられています（42.4%）。なお今後必要なハード設備として最も少ないのは「アーケード」（1.7%）でした。



<ヒアリング結果のまとめ>

【市・県・国の補助制度をうまく活用することで修繕費を賄っている】

- 街路灯の修繕費、約 350 万円を「市と県から3分の2、残り3分の1を商店会の負担で行った」とか、「街路灯の設置は国の補助金を活用し、現在の維持費用のすべては市に負担してもらっている」など、うまく補助制度を活用している事例もあった。
- 街路灯の修繕費は以前は会員から費用聴取していたが、LED への交換で町の負担になった。
- 公共性の高いハード設備などは積極的に維持管理を行政に移管する動きもみられる。

【補助制度の活用の他に、計画的な積立、積立金の用途拡大、保険額の引き上げなども大切である】

- アーケードの積立金はあるが、アーケードの撤去に伴う道路舗装や街頭設置などの街づくり費用がかかるために、施設全般のための積立金に名称変更と用途を拡大し、少なくとも現役員体制下では工事に伴う一時金は徴収しないことにしているとの取り組みもみられる。
- ちょうど保険額を上げて、財産補償もつけたところだったので、街路灯とアーケードの修理は保険で賄えたという商店街もあった。
- 駐車場からの年間収入のおかげで商店街の運営が回っているというところもあるが、以前は収益を生んでいたが今は生み出しにくい状況にあるところもあり、委託管理料の安い事業者に変えるなどの努力もしている。

【街路灯の修繕などは積立金で賄っているところもあるが、アーチ等やアーケードの修繕や解体・撤去になると高額になり積立だけでは賄えないところもある】

- 街路灯の修繕は会費の積立で賄っているケースが多い。
- 街路灯としても機能しているアーチなので解体だけで 1,000 万円かかるという。市が撤去にある程度費用を出してくれるが、負担は大きい。
- 防犯カメラ9基の修理代に300万円かかり、防犯カメラ自体の作動を取りやめたという商店街もある。その理由は防犯カメラの効果に疑問を持っているようである。

【ハード設備の管理等での悩みは、コストの問題だけではない】

- モニュメントの管理で 800 万円くらいかかるので、最終的に市に管理を移管したが、管理は難しい面も多いという。色を塗るなど、何かしようとしても著作権の問題があって、何も手をつけられないことがおおいという。
- アーチの撤去作業は、バス通りのために深夜工事になってしまうという。

【ハード設備の破損が危険な状況にある商店街もいくつかある】

- 商店街でもっとも恐れているのは、あぶないと判断されているものを放置して、もし被害がでたら保証問題になってしまうという恐れ。事実、過去に老朽化したアーケードから物品が落下して、人にけがをさせたことがあるという商店街もあった。

- 昨年（2019年）の台風時に街路灯が倒れたというようなケースはいくつかあった。それらは県の補助金などで直されている。

【破損が深刻化しているケースもあるが、全面的な修繕等に着手できないケースもある】

- アーケードの雨漏りとかトタンの剥がれくらいは、都度修理しているが傷みが激しいために抜本的には解決することができないままている。
- アーケードのぶら下がっている電灯もワイヤーのみで支えているため危険。撤去するにしても莫大な費用がかかるため、そのままになっているといった問題を抱えた商店街もある。
- 本来は現在の街路灯を全部撤去したいができないている。改修費用だけでなく撤去費用も高い、また建て替え時に組んだローンがまだ残っているので着手できないなどの状況もある。

【ハード設備の管理においは将来についてもいろんな悩みを抱えている】

- 新しい会員も増えてくると、修理等についての合意がなかなか難しくなるといった悩みもある。
- 平成に入ってから街づくりの際につくったモニュメントも、老朽化でいずれは撤去しなくてはならないであろう。他の商店でも実際に動かなくなった、撤去したとの話を聞いている。
- 次の世代に負の財産を残さないようにするのが我々の責務と考えている商店もある。